

令和3年度第3回地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会 意見様式1

令和4年3月25日

【資料1】 令和3年度上半期業務実績に係る病院等との意見交換

回答先委員 鮎澤 英之 委員

病院等	評価委員 意見	病院機構 回答
全体	<p>オミクロン株による感染拡大下において、病院機構の皆様のご尽力に感謝申し上げます。</p> <p>また、そのようなお忙しい中、令和3年度上期の実績報告のご対応をいただき、御礼申し上げます。</p> <p>1日も早いコロナの克服と平常化を願っておりますので、コロナ克服までの間、皆様のご健勝を祈念しております。</p> <p>また、全病院ともにR3上期は医業収益が増加しており評価したいと思います。下期はオミクロン株の感染拡大による影響が懸念されますが、今後ともに地域に必要とされる医療機関としてのご対応を期待しております。</p>	
信州医療センター	<p>コロナ対応では延べ1,300名以上の患者対応や検査対応、ワクチン接種対応など、大変なご尽力をいただき、感謝いたします。</p> <p>前期と比較して医業収益の増加116,064千円以上に医業費用が増加124,723千円となっております。医業費用増加の内容をみますと、給与+19,191千円、材料+24,372千円、減価償却費+26,459千円、経費+53,807千円となっております。</p> <p>これについて、</p> <p>①給与は計画比でも+21,639千円と前期比増と近似していますが、予算作成時に人件費の増加を見込めなかったのでしょうか？（予算精度に課題があるのでしょうか？）</p> <p>②経費は予算と比較すると△3,096千円ですが、前期比で増加を見込んでいた事項をご教示ください。</p>	<p>①について 以下の理由により予算作成時に人件費の増加を見込めませんでした。 ・育休復帰者が予定より多かったため。 ・予算作成時にまだ決定していなかった（病院採用）→（機構採用）の研修医の増額分の影響があったため。（R3のみの影響で、R4は同様のことはない）</p> <p>②について 燃料費はR2実績に基づき予算を作成しています。燃料費のうちガス使用量がR2実績に比べ95%に減りました。ガスは空調に利用され、夏の冷房使用がR2に比較して少なかったことが要因と考えます。この影響により経費が減少しました。</p>
こころの医療センター 駒ヶ根	<p>インフラ整備によるオンライン面談の増加など、新たな取り組みに関しまして評価いたします。</p> <p>医業費用はほぼ計画通りとなっておりますが、医業収益が計画に達しなかった要因として4月、9月の任意入院抑制を挙げております。一方で病床確保料も予算で計上していることを勘案すると、予算策定時に医業収益を高くしすぎたということはありませんでしょうか？（予算精度の課題）</p>	<p>令和3年度計画については、中期計画目標の病床利用率80%から新型コロナウイルス感染症受入れのための休止病床3床を除いた78.1%を目標値として設定しました。また、この目標については感染拡大以降に病床利用率80%以上を達成している期間があったため、過度な目標設定ではないと判断しました。しかし、上半期は5月に県域外からの新型コロナウイルス陽性患者の入院受入れに伴い、緊急性の低い任意入院患者の受入れを抑制したことで患者数の減少が続いたことにより、目標を達成することができませんでした。今後も陽性患者受入れが予想されるため、入念なベッドコントロール、入院患者の適切な在院日数の確保等により医業収益が大きく減少しない取組みに努めます。</p>

<p>阿南病院</p>	<p>医業収益、費用ともに前期及び計画を上回り、病床確保料考慮前で経常利益を計上しており、評価いたします。収益アップのためおよび経費削減のための地道な病院一丸の取り組みが成果となったと考えおります。 売木村の診療所への医師派遣ですが、患者延べ人数についてご教示ください。</p>	<p>当院の取り組みを評価いただきありがとうございます。 売木村診療所の患者数ですが、上半期は23回派遣して延べ457人の患者を診察しております。</p>
<p>木曽病院</p>	<p>医業収益、費用ともに前期及び計画を上回り、病床確保料考慮前で経常利益を計上しており、評価いたします。特に収益アップのための取り組みについて評価いたします。 老健施設に関しては、コロナによる通所受入を制限したにもかかわらず、前期比で収入増となっている点を評価いたします。 病院について、給与ですが、医師の確保により計画比でも+32,743千円となっております。医師確保による人件費増は計画に織り込むことはできなかったのか、医師の数は医業収益の計画を立てる前提にもなるかと思っておりますので、ご教示ください。</p>	<p>ご指摘のとおり、医師数は医業収支に与える影響が大きいと認識しております。 しかし、医局の都合や自治医大卒医師の場合は県の都合により事前に派遣数を把握するのが困難な状況にあります。そのため、基本的には前々年度ベースとし、予算作成時までに確認できたもののみ予算計上しています。 令和3年度については、自治医大卒の外科常勤医の配置が、3月に入って分かり、予算への反映が間に合いませんでした。外来の非常勤医師の配置についても3月に入ってから枠数が固まり、内科で4枠、呼吸器内科で1枠、皮膚科で1枠が追加となっています。また、麻酔科医の定年退職再雇用に伴う休日の緊急手術対応の体制確保については派遣先の伊那中央病院と条件面をめぐってなかなか合意できず、3月末になってようやく合意が成立しました。さらに、当院医師の負担軽減のため、2月から信大各医局に働きかけていた平日当直業務代行医師募集について、徐々に周知が進み、予想を上回る応募がありました。 以上のような状況から、計画額を上回る支出額となっております。</p>
<p>こども病院</p>	<p>前期より医業収益の増収、経常損失の縮小となり、県外患者受け入れが厳しい中で増収、損失縮小となっている点を評価いたします。 感染隔離室の増設を行ったとのことですが、コロナ対応のみではないかと思えますので、専門外で無知で申し訳ありませんが、コロナ以外に想定している活用方法についてご教示ください。 また、経常費用のうち以下2点についてご教示ください。 ①補助金活用による医療機器購入により保守料や賃借料、修繕費の削減ができたとのことですが、これに伴う来期から5年程度の費用削減効果（減価償却費増加分を加味）をご教示ください。 ②研究研修費について予算比△12,277千円となっておりますが、その要因と必要な研究研修の質面での確保はできているかどうか、ご教示ください。</p>	<p>感染隔離室については、当院では水疱瘡など空気感染に対応できる設備がなかったため、コロナ以外においても有効活用が見込まれます。 ①補助金活用による医療機器購入に伴い見込まれる費用削減効果については以下のとおりです。（R4年度以降の5年間で算出） ○賃借料 人工呼吸器、医療用シェルター等購入に伴い、機器等賃借料が年額16,340千円×5年間＝81,700千円の減額が見込まれます。 ○保守料 更新後1年間は保守費用の無償期間となるため費用減となりますが、2年目以降は保守費用が発生します。 なお、該当機器の更新後1年間の保守料は11,373千円の削減となっています。更新後2年目以降（R4年度以降）については、有償保守期間となりますが、今後の保守内容精査により金額が変動するため、現時点では費用削減額を見込めません。 ○修繕費 該当機器の修繕費削減額（R元－R3比較）は、R3年度実績で4,267千円です。今後も同程度、修繕の発生が減少すると想定すると5年間で21,335千円の削減となりますが、突発的な故障発生等を考慮すると、実際の修繕費削減額とは異なる可能性があります。 ○減価償却費 R2年度、R3年度に新型コロナウイルス対応のために購入した機器の補助金交付額合計218,433千円を減価償却費の計上と併せて資産見返補助金として収益化するため損益改善に繋がっています。 ②研修研究費については、新型コロナウイルスによる影響から、学会の開催方法が従来の集合形式から、オンラインでも参加が可能となり、特に研修旅費が大幅に減少したものです。質的な確保に問題なく、新たに文部科研基盤研究が始まるなど、院内の研究活動も活発に行われています。</p>

<p>信州木曾看護 専門学校</p>	<p>県内への看護師供給にご尽力いただき、感謝しております。 成果の内容ですが、技術テスト合格率が前期比△49ポイントなど、他の箇所でも計画比で大きく未達の項目があります。この点は年間実績、年間計画との比較となっており、進捗が悪く見えるとも思えますが、前年同期と比較するとどのような状況になるのか、ご教示ください。なお、年間の進捗率で評価をされるのであれば、前期も上期での進捗率を示し、それとの比較とした方がよろしいかと思います。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。技術テストはその学年の練習への取り組み具合に左右されます。合格率の著減の原因は昨年度に比し、テストまでの練習方法が効果的ではなかった事と、学生の指先の巧緻性が落ちていることが上げられました。練習を他者に評価してもらうことで技術は上がりますが、この学年は他者の評価を嫌う傾向にあり、試験日までに標準の技術まで上げることができませんでした。尚、再試験では全員が合格しています。学年の特徴に左右されるデータなので、ご指摘の通り、記載方法などを検討させていただきます。</p>
<p>本部・研修センター</p>	<p>画像診断センターの設置やコロナ対応のために県健康観察センターへの看護師派遣などについて評価いたします。 給与について上記などにより計画比で増加したとのことですが、計画時点で上記を加味できなかったのか、予算精度に課題がなかったのか、ご教示ください。</p>	<p>本部画像診断センターの開設は当初の計画にはなかった事項であり、センター設置のための組織変更は3月に行いましたが、給与費等経費の予算計上は間に合わない状態でした。今後も予算編成の際は、できるだけ実際の収支に対応した予算となるよう留意いたします。</p>

令和3年度第3回地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会 意見様式1 ☒

令和4年3月25日

【資料1】 令和3年度上半期業務実績に係る病院等との意見交換

回答先委員 小口 壽夫 委員

病院等	評価委員 御意見	病院機構 回答
信州医療センター	<p>感染症医療への貢献は高く評価できる。 一方で、今年度は回復力がうかがわれる中で、入院患者数の減や当期純利益（病床確保費を含まない以下同じ）が前年度と大差のない2億円弱の損失は反省材料になると思う。 診療単価が入院・外来とも増えているがその分析は？ 医業収益が1億円余増えている事は評価できるが、医業費用もほぼ同額増えている事は反省点。</p>	<p>入院単価の増加については、新型コロナウイルス患者の受入れ及び整形外科と呼吸器外科の手術件数増加によるものです。結核病棟に関しては、結核患者受入時の入院単価は平均25千円であるのに対し、コロナ患者入院単価は平均65千円に増加しました。 外来単価の増加については、コロナ検査の増加による外来単価の減が、一定数あった外来化学療法の実施によりカバーされたことによります。</p>
こころの医療センター駒ヶ根	<p>3つのセンター計画が同時進行で進んでいて素晴らしい。しかしながら、こうした取り組みは、限られたスタッフ数の所では大変な労力になりはしないか？少し心配です。 機能評価の高評価は、精神科単科の病院であるとはいえ、大いに評価出来る。当期純損益の損益2千万円増は反省材料と思う。 人件費率の増が心配。 質問：ここ数年の人件費率の推移を教えてください。</p>	<p>純損益が計画比で約2千万円悪化した理由として、新型コロナウイルス陽性患者受入れに伴う依存症患者等の任意入院抑制による入院収益の減少が大きく影響しています。収益の増加を図るため、今後も病床利用率の向上や適切な入院期間の確保など職員全体で取り組みを進め、経営改善を図ります。また、働き方改革を推進し、二交代制勤務の導入や業務のタスクシフト等を進め、業務の効率化により、新たな事業に振り向けます。 人件費率の過去5年間の推移は以下のとおりです。 平成28年度 110.4%、平成29年度 104.3%、平成30年度 106.7%、令和元年度 103.2%、令和2年度 108.7% 過去5年間の人件費比率は、認知症疾患医療センターの開設やチーム医療の推進など精神科の専門医療体制の強化により、100%を超えている状況です。今後は、令和4年1月開設のm-ECTセンター、3月開設の依存症医療センター等の新規事業の開始や効率的な業務運営により、医業収益の増額を図ることで人件費比率の抑制に努めます。</p>
阿南病院	<p>病院、老健ともに、全ての経営指標が目標比及び前年度比ともかなり上回っていてとても素晴らしい。また、医業費用の大幅削減も凄い。 その結果、病院の当期純損益が前年度比7.6千万円増、老健が1.3千万円増と双方とも顕著な成果を上げた。 併せて、コロナ感染症への対応も信州医療センターに次ぐ高い実績を挙げていて、これも高く評価できる。 院長以下、全職員が一体となって、病院運営に取り組んでいる結果であり、とても素晴らしい。 質問：この3年間の医師数の推移は？</p>	<p>当院の取り組みを評価いただきありがとうございます。 常勤医師数につきましては、元年度9名、2年度8名、3年度9名で推移しています。</p>

<p>木曽病院</p>	<p>入院・外来患者数（延べ・新とも）著明な増加は素晴らしい。加算に向けての積極的な取組みにも成果が出ていて評価できる。病床利用率の増加は記録的。その割に紹介率の低下が気になります。こうした目覚ましい患者増の原因に、南木曽町からや心不全の患者増を上げているが、それだけでは説明できないように思う。他に何かあったら教えて欲しい。常勤医師増は？、またアメーバ経営の採用の成果は？木曽介護医療院も好調に経過している。医業収益が半年で前年度比2億7千万円増、また、当期純利益の前年度比2億1千万円増は経営規模を考えると画期的な額と言える。加えて、コロナ感染症への対応も前年度以上の実績を挙げている。人件費増や職員の疲弊が心配になりますが大丈夫ですか？。</p>	<p>・患者数増の要因 南木曽町から及び心不全患者の増の他、転倒・転落による骨折患者の増加、冬季の低体温症患者の増加が考えられます。 常勤医師については、脳神経内科で1名（就学資金貸与医師）、外科で1名（自治医大卒）増加しています。前者は7月から1月まで出産に伴う休暇や育児休業を取得していましたが、同科では入院患者が前年比934名増となり、後者は外科の手術増（前年比109件増）入院患者増（前年比357名）につながっています。しかし、一番入院患者数が増加しているのは内科で、対前年比2,748名増となっています。 科長が35歳で構成員も30代と若返り、風通しが良くなったこと、外来に信大派遣医が4枠となり外来負担が減ったことも入院患者増の要因の1つと考えています。なお、紹介率の低下は紹介患者数自体はほとんど変わらないものの（R2 118人→R3 115人）初診救急患者数が減少（R2 360人→R3 300人）し、分母である初診患者数が増えた（R2 1,994人→R3 2,389人）影響によると考えています。</p> <p>・アメーバ経営の成果 運用を始めてから、部署ごとに事務部経営管理係との毎月の面談及び4半期ごとの院長・事務部長との面談を行い、毎月作成するBSCにおいて収入増、経費削減等の取組みの進捗を確認しています。また、時間当り採算表を作成し、取組みの成果を数値で確認しています。部署ごとの取組みとして、収入面ではDPC入院期間を示した表を用いたベッドコントロール、経費面では輸液ポンプの切替え・診療材料の価格交渉による購入費の削減等により、令和3年度は月次損益の黒字を維持しています。また、時間の取組みとして部署を横断した職員同士の応援体制が確立できています。</p> <p>・人件費増及び職員の疲弊 人件費の増加につきまして、常勤医師及び非常勤医師の増加によるところが大きいと考えますが、当院医師の負担軽減のための措置として増加しているところが多分にあります。入院患者数の増加に伴い職員の業務量も増加傾向ですが、部署間の応援体制を活用し超勤削減及び年休の取得を推進するなど職員の負担軽減を図っているところです。</p>
<p>こども病院</p>	<p>今年度は、小児患者数が回復傾向にあると言われるが、入院・外来にかかわらず患者数の高い増加と、病床利用率の著明な増加は評価できる。また、コロナ禍にあって当期純利益は2.3千万円の赤字であったが、前年度に比べ約1億円の回復は素晴らしい。上昇傾向にあった給与費について、超過勤務手当の縮減に努めたところがあるが、全体で3千万円ほど増加していて、さらなる検討を要す。令和3年4月より開設した3センターの実績を次回評価委員会でご報告して頂きたい。</p>	<p>給与費は、新たに専攻医を6名採用したほか、看護師の勤務負担軽減のため、保育士へのタスクシフト及びパートタイマー看護師の活用による増員があり増加しました。 新センターの状況については、次回評価委員会において報告します。</p>

<p>信州木曾看護 専門学校</p>	<p>コロナ禍にめげずに頑張っている様子がうかがえて素晴らしい。 質問：応募者数の推移は？、昨年の国試合格率？留年者数は？</p>	<table border="1" data-bbox="1320 167 1517 492"> <thead> <tr> <th colspan="2">受験生数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1期生</td><td>136</td></tr> <tr><td>2期生</td><td>98</td></tr> <tr><td>3期生</td><td>60</td></tr> <tr><td>4期生</td><td>64</td></tr> <tr><td>5期生</td><td>68</td></tr> <tr><td>6期生</td><td>85</td></tr> <tr><td>7期生</td><td>70</td></tr> <tr><td>8期生</td><td>58</td></tr> <tr><td>9期生</td><td>53</td></tr> </tbody> </table> <div data-bbox="1536 175 2070 228" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>昨年の国家試験合格率95%でした。</p> </div> <div data-bbox="1536 240 2070 423" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>令和3年度上半期留年者数0でした。 ちなみに、下半期では留年者1名（3年生） 退学者1名（1年生） でした。</p> </div> <div data-bbox="1536 435 1815 573" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1期生を100とすると 9期生は39まで下がっ ています。</p> </div>	受験生数		1期生	136	2期生	98	3期生	60	4期生	64	5期生	68	6期生	85	7期生	70	8期生	58	9期生	53
受験生数																						
1期生	136																					
2期生	98																					
3期生	60																					
4期生	64																					
5期生	68																					
6期生	85																					
7期生	70																					
8期生	58																					
9期生	53																					
<p>本部・研修センター</p>	<p>医師確保・養成の取り組み、機構職員に係る取り組み、その他を、コロナ禍にあっても、創意工夫しながら地道な努力を続けている事に敬意を表したい。 本部画像センターの開設は、質向上や人件費節約？のためにも良い試みと思う。 質問：適正な看護師数の検討で、適正人数試算表は「県立病院モデル」としてどこかで公表できませんか？</p>	<p>看護職場の適正人数に対する取組については、日本医療マネジメント学会(第21回、第22回)、全国自治体病院学会（第58回、第59回）にて発表していますので、学会参加者等の希望者には適正人数試算表（以下試算表）の提供を行います。 試算表が適正人数を導き出すわけではないので、提供にあたっては当法人が適正な人数を求め続けているプロセスも併せて提供させていただいています。</p>																				

令和3年度第3回地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会 意見様式1 |

令和4年3月25日

【資料1】 令和3年度上半期業務実績に係る病院等との意見交換

回答先委員 川合 博 委員

病院等	評価委員 御意見	病院機構 回答
信州医療センター	コロナ感染症が指定感染症でなくなった後の患者の受療状況の見込みについて、ならびに病院の経営戦略についてどのように考えておられるか。	コロナによる患者の行動変容の見直しについてははっきりしないところですが、外来患者数、入院患者数はそれぞれ令和元年度の同水準、95%程度の水準を見込んでいます。 経営については、地域とも連携し、患者数の増加を図り収入を確保するとともに、材料費等の経費の削減を推進し、安定した経営状況を目指します。
こころの医療センター駒ヶ根	アルコール依存症に対する診療状況はどうか。 コロナ禍で「家飲み」が増え、アルコール依存症が増加傾向にあるとのニュースを見たが、家飲みが増えると欧米なみにアルコール依存症が増えるかも。	受診件数、相談件数ともにコロナ流行前と比較して増加傾向はありません。一方、依存症対策全国センターより、コロナ流行後から全国的にギャンブル依存が増加傾向という調査結果が出ており、当院でもギャンブルに関する相談・受診件数は同様の傾向です。依存症担当医によると、アルコール問題の表面化は数年経過後であるため、コロナが原因となるアルコール健康障害は今後増える可能性はある、という見解です。
阿南病院	・積極的な加算の取得など、病院としての経営努力が見られ、数値上の改善も見られています。 ・中山間地の病院として、オンライン診療の全国モデルになることを期待しています。	当院の取り組みを評価いただきありがとうございます。 オンライン診療につきましては、当院の取り組みを参考にオンライン診療を開始したいという診療所も出てきており、積極的に情報共有、支援を行いたいと考えております。
木曽病院	病院の様々な取り組みが成果を出し始めているように思います。	ありがとうございます。引き続き意欲的に取り組んでまいります。
こども病院	オンライン診療の取り組みについて現状はどうか。 遠方から定期的に通院している患者も多く、長期処方例も見られることからニーズは大きいと思います。	令和3年12月10日付で通信上の安全性が確保されたオンライン面会システムの導入を行ったところです。 同システムはオンライン診療にも対応しているため、これを用いたオンライン診療について検討を行っています。
信州木曽看護専門学校	技術テスト合格率が著減していますが、その原因分析と対策はどうなっていますか。	合格率の著減の原因一昨年度に比し、テストまでの練習方法が効果的ではなかった事と、学生の指先の巧緻性が落ちていることが上げられます。練習を他者に評価してもらうことで技術は上がりますが、この学年は他者の評価を嫌う傾向にあり、試験日まで標準の技術まで上げることができませんでした。 尚、再試験では全員が合格しています。技術試験は学年の特徴が現れやすいので、年度によってバラツキが出ますが、最終的には全員が標準技術まで達することができています。
本部・研修センター	画像診断と同様に病理診断もセンター化解説に向けた準備をしたらどうですか。	機構においては、病理診断医がおらず定期的に大学から派遣をしてもらっている病院もありますが、特に機構として一括したセンター組織が必要といった要望がないため、今のところセンター化は考えておりません。

令和3年度第3回地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会 意見様式1 ☒

令和4年3月25日

【資料1】 令和3年度上半期業務実績に係る病院等との意見交換

回答先委員 田下 佳代 委員

病院等	評価委員 意見	病院機構 回答
信州医療センター	<p>・資料1-2、5頁 経常利益が減になった理由として、「患者数の減少」が挙げられていますが、患者数の減少の要因をどのように捉えておられるでしょうか、ご教示ください。</p>	<p>医療機関で感染に不安を感じる人が多く、症状が悪化するまで受診を見合わせるなど受診控えの傾向がしばらく続くと考えています。</p>
こころの医療センター駒ヶ根	<p>・資料1-2、6頁 基本方針5として、「保健・医療・福祉・教育機関と連携して患者さんの地域生活を支援します。」とありますが、教育機関とはどのような連携をしているのでしょうか、ご教示ください。 ・同 7頁 「家族支援のためのペアレントトレーニング」の上半期実績が0である理由をご教示ください。 ・同 7頁 依存症医療の提供で、ゲームネット依存患者の入院受入症例全てにおいて治療効果を確認とありますが、具体的に、どのような患者さんについて、どのような治療効果が確認できたのでしょうか、ご教示ください。</p>	<p>・資料1-2、6頁「基本方針5」については、長野県及び上伊那圏域での発達障害に係る支援協議会等に参画するほか、入院の児童に関しては学校との支援会議の実施、学校への訪問等、個別支援により連携を図っています。 ・同 7頁「ペアレントトレーニング」の上半期実績について、昨年度からの継続者はいますが、今年度上半期の新規登録がなかったため、ゼロとしています。（実施期間は約4か月としています。） ・同 7頁 中学生以上の思春期、青年期の男子が多く、令和2年度の入院症例は8例（児童、思春期3名、成人5名）で、集団の認知行動療法を中心に実施しました。引きこもり、多額の課金、家庭内暴力等の問題が、治療プログラムにより改善傾向にあります。</p>
阿南病院	<p>・資料1-2 13頁 基本方針1として「患者さんとその生活の全てを総合的に診る」とありますが、「生活の全てを総合的に診る」とは具体的にどのようなことを想定されているのでしょうか、ご教示ください。</p>	<p>患者の疾患だけではなく、患者自身の性格や人生観、生活観を理解し、支えている家族、地域住民などの周辺環境の全てをでき得る限り把握して患者に向かい合い、一緒に治療をすることであると考えております。</p>
木曽病院	—	—
こども病院	<p>・資料1-2 35頁 医業収益について、「新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の影響を受けた県外患者数減少が回復せず」とありますが、本来受診すべき患者さんの受診控えはなかったのでしょうか、また、県外患者数の回復のために、何か取組をおこなうことは考えておられるのでしょうか、ご教示ください。</p>	<p>コロナ前の2019年度とコロナ禍の2021年度の県外患者数を比較しますと、延べ入院患者数に対する県外患者数の比率が概ね8%から4%台と低迷していることから、一定程度受診控えはあったものと推察されます。 コロナ禍における受療動向の変容により、以前並みの回復は難しいと考えますが、令和4年度は外来診察室の増室による診療機能の強化、小児がんセンターの開設等、魅力ある病院づくりを進め、患者数の回復に努めていきます。</p>

<p>信州木曾看護 専門学校</p>	<p>・資料1-2 37頁 理念として「生涯にわたって学びつづける態度を身に付け」とありますが、そのためにどのような点に工夫されているのでしょうか、ご教示ください。</p>	<p>生涯にわたって学び続けるためには、学び続けている先輩の姿をモデルとして認識する必要があると考えます。そのため、各県立病院の専門看護師、認定看護師に講義依頼し専門領域の講義とともに、ご自身のキャリアについて話していただく機会を設けています。また、2年次のキャリア開発基礎講座では、実習病院の看護師を招き、キャリア形成について教授いただいています。教員も学び続ける存在として学生の前に立っています。</p>
<p>本部・研修センター</p>	<p>・SDGsやCO2削減に向けた取り組みはおこなっておられるのでしょうか、ご教示ください。</p>	<p>SDGsとしての取り組みはありませんが、CO2削減については、令和3年度年度計画第7の2「施設整備及び医療機器に関する事項」に、施設等の整備におけるCO2排出量削減の取り組みについて記載しており、更新の際には環境に配慮した施設設備の導入に努めております。</p>

令和3年度第3回地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会 意見様式1

令和4年3月25日

【資料1】 令和3年度上半期業務実績に係る病院等との意見交換

回答先委員 浜田 淳 委員

病院等	評価委員 御意見	病院機構 回答
信州医療センター	コロナ患者の病床確保と受け入れ、手術制限や地域包括ケア病棟の削減運用などご苦労が多いと思います。こうした状況において、紹介率の引き上げや看護師のタスクシフトの推進、価格交渉の強化による経費削減などを行っており、評価できます。	引き続き、健全な病院経営に努めてまいります。
こころの医療センター駒ヶ根	コロナ禍での空床確保、入院制限などで苦労される中で、子どものこころ総合医療センター創設への取り組み、精神科訪問看護ステーション開設への取り組みなど、多様な事業に取り組まれています。機能評価で高い評価を受けたことも素晴らしいです。	当院の取組について評価いただきありがとうございます。今後とも精神科専門医療の提供や地域包括ケア推進、院内全体の医療の質向上に積極的に取組んでまいります。
阿南病院	下伊那南部唯一の病院として、在宅医療、訪問看護に活発に取り組むなど、地域住民のニーズに沿った医療・介護を展開されています。摂食嚥下チームの立上げ、オンライン診療への準備、DPCへの手上げ等、新型コロナへの対応を行いながら意欲的な活動を行っていることを評価します。	当院の取り組みを評価いただきありがとうございます。新型コロナへの対応と下伊那南部地域における診療環境確保の両立を目指して、引き続き積極的に取り組んでまいります。
木曽病院	コロナ禍の状況においても、DPCを意識したベッドコントロールによる入院収益の増加など、高いパフォーマンスを達成しています。在宅医療の展開、介護医療院の運営改善、PCRへのNEAR法の導入、災害医療への適切な目配りなど意欲的な経営が続けられており、高く評価します。	ありがとうございます。令和2年度より運用しているアメーバ経営における部門ごとの取組み等により経営改善を図っております。引き続き意欲的に取り組んでまいります。
こども病院	コロナ禍による県外入院患者の減少などにより収益が減少するなど経営にはご苦労が多いと思います。その一方で、小児アレルギーセンター、成人先天性心疾患センター及び生育女性科外来の開設、退院後の訪問診療など、多様かつ先端的な事業の取り組まれています。今後とも高度専門的な医療機関としての取り組みを期待しております。	ありがとうございます。長野県小児科医会の先生方にアンケートをさせて頂き、こども病院に期待することを整理して、病院将来構想に生かして行きます。
信州木曽看護専門学校	コロナ禍での教育の実施は困難が伴いますが、予防対策を徹底して予定通り授業を実施されていること、工夫されながら実習を通常通り実施されていること、高校訪問を積極的に実施されていることには、敬意を表します。これからも学校の理念に基づき、地域に根差した、質の高い看護教育を続けていかれるように期待しております。	ありがとうございます。コロナ禍において、各県立病院では、多忙の中、学生を受け入れていただき、感謝です。学生の実習の充実度は昨年よりアップしていました。感染拡大のなか真剣に医療・看護に取り組む姿勢を目の当たりにしたことが大きく影響していると考えます。
本部・研修センター	コロナ禍の状況で、職員の相談体制の強化、病院間の交流派遣の取り組み、県から要請を受けての看護師の派遣等が行われていることを評価します。コンサルの活用による医薬品当の価格交渉も成果を上げているようです。一点質問ですが、人事評価制度についてはアンケートを実施し、それに基づいて見直しを行っているとのことですが、どのような見直しを行ったのでしょうか。	人事評価制度に係る見直し事項は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・評価制度に用いる評価シートの押印を廃止 ・医師の行動評価（各部門・部署が医師を評価し、医師が各部門・部署を評価する制度）について、人事評価制度と分離し、部署間双方向評価（各部門・部署間でもお互いに評価を行う制度）を新設 ・その他 評価対象者の範囲について院長裁量にできるよう明記、評価者区分の一部改正、本格運用を見据えた評価時期の一部改正（行動評価：年度末⇒11月）等

令和3年度第3回地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会 意見様式1

令和4年3月25日

【資料1】 令和3年度上半期業務実績に係る病院等との意見交換

回答先委員 宮坂 佐和子 委員

病院等	評価委員 御意見	病院機構 回答
信州医療センター	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染に関しては、前年度に引き続き多くの患者を受け入れ、ワクチン接種に関しても住民接種および須坂市への支援を積極的に実施し役割を十分に果たしている。 タスクシフトへの取り組みは、医師事務作業補助者の増員、夜間看護補助者者の導入等に取り組んでいるので、今後の更なる成果に期待したい。 コロナ感染者受け入れを最優先の病床管理は仕方がないが、今後は病床利用率向上に向けての取り組みは課題であると思う。 Q) 紹介率の数字はあっているのでしょうか。(令和2年度実績が60.8%だったので) 	<ul style="list-style-type: none"> 病床利用率については、看護部主導のもと日々ベッドコントロールの打合せを実施し、管理者と情報の共有を図っています。 救急患者が多い当院では、従前から初診患者数に救急患者数等を含めない紹介率・逆紹介率の算定方法を院内で使用してきました。年度計画及び業務実績等報告書では、これまで初診患者数に救急患者数を含めた算定方法で記載していましたが、令和3年度の年度計画から院内で行ってきた算定方式としました。
こころの医療センター駒ヶ根	<ul style="list-style-type: none"> 精神科医療の中核病院として、「m-ECTセンター」「依存症医療センター」「子どものこころ総合医療センター」「精神科訪問看護ステーション」などの設置に向けて積極的に取り組み、役割を果たしている。これらの取り組みが、病床利用率向上につながることを期待する。 コロナ禍において、認知症疾患医療センターの実績(相談件数・外来件数)を伸ばしていることは素晴らしいと思う。 	<p>当院の取組について評価いただきありがとうございます。今後とも精神科専門医療の提供や児童思春期医療、認知症疾患医療センター、訪問看護ステーションなどの地域包括ケアの推進に積極的に取り組んでまいります。今後は、これらの治療等を県内関係医療機関に広報し、患者紹介により病床利用率の向上を図ってまいります。</p>
阿南病院	<ul style="list-style-type: none"> 地域に密着した医療を展開して、ワクチン接種を積極的に実施し、2回目接種率の最速は素晴らしいと思う。 阿南病院の新入院患者増加・病床利用率向上、阿南介護老人保健施設の利用者向上、訪問看護ステーションの利用者増加とすべての事業において、収益向上に繋がっていて、素晴らしい実績だと思う。 	<p>当院の取り組みを評価いただきありがとうございます。新型コロナのワクチン接種を含めて、下伊那南部地域の住民のために必要とされる医療をさらに積極的に提供できるよう努めて参ります。</p>
木曽病院	<ul style="list-style-type: none"> 新入院患者の増加とベットコントロール強化を行い、在院日数の短縮と病床利用率を向上させたことは素晴らしい業績だと思う。また、成果として、経営状況が当期純利益が大幅に改善していることは高く評価できる。 Q) 看護師の特定行為研修受講を促進していますが、今後の活用についてのお考えを教えてください。 	<p>現在当院には診療看護師1名、特定看護師2名が在籍しており、この3名でチームを結成し、外来・入院・訪問看護の医師と連携し診療への介入方法を検討しています。今後は、特に訪問看護への介入を拡大していく予定です。</p>

<p>こども病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年は「小児アレルギーセンター」「成人先天性心疾患センター」「移行期医療支援センター」「生育女性科外来」を新たに開設して、専門性の高い診療機能を強化していて素晴らしいと思う。 ・コロナ禍においてではあるが、新入院患者の増加と病床利用率が向上し、経営状況は令和2年実績より大幅に改善がみられていることは評価できる。 ・医師の労働環境改善に向けての取り組みは、変形労働時間制の導入など新たな勤務体制として成果を期待する。 	<p>医師の働き方改革への対応は、一定の目途が立ちました。今後さらにタスクシフトについても検討していきます。</p>
<p>信州木曾看護 専門学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において実習が概ね通年どおりできたことは、学生にとっては有意義な学びにつながったと思う。 ・高校訪問は65校と精力的に実施されているので、令和4年度の学生確保に期待したい。 	<p>ありがとうございます。高校訪問が実施できたことは良かったのですが、まだまだ知名度が浸透していないため、受験生の確保に結び付くかどうか不安が残ります。</p>
<p>本部・研修センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ対応として、オンラインの活用や働き方の工夫（在宅勤務の推進など）の取り組みは今後も活用できて良いと思う。 ・Q) 各病院看護記録指導者を対象に看護記録研修を実施しているが、記録の改善の目的と、今後の取り組みとしては記録の統一（方式・用語・シート）などを考えているか教えてほしい。 	<p>県立病院機構看護部長会の懸案事項の一つとして看護記録の改善に取り組んでいます。全看護職員が看護記録の目的を理解し、原則に則った記録ができることを目的に、今年度は指導者を対象に研修を実施しました。 5病院の記録方式の統一は考えていません。記録の原則は共有したいと考えています。</p>

令和3年度第3回地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会 意見様式1

令和4年3月25日

【資料1】 令和3年度上半期業務実績に係る病院等との意見交換

委員御氏名 山上 哲生 委員

病院等	評価委員 御意見	病院機構 回答
信州医療センター	<p>新型コロナウイルス感染症の申核病院として、重要な役割を担っていただいていることに、敬意を表します。そのような状況の中で、経営的にも一定の成果を得ているものと評価いたします。なお看護師のタスク・シフトの推進による成果と当事者者の皆さんの評判をお聞かせください。</p>	<p>令和3年4月から病棟クラーク、6月から夜間看護補助者を導入しました。この機会に、副師長を中心に補助者業務の見直しも行いました。配置があった対象病棟のスタッフの評価として、アンケートの結果から、タスクシフトが進み、看護業務に専念できる時間が増えたと実感しています。また、当該病棟だけでなく、共有スペースや他部署の業務も担ってもらい、病院全体への貢献にも繋がっています。</p>
こころの医療センター駒ヶ根	<p>超過勤務手当の増加は一過性であるとの理解でよろしいでしょうか。2交代制勤務は試行実施されているのか、またその成果はどのように見込んでいらっしゃるのか。依存症医療センター開設や子どものこころ総合医療センター構想など、今後の進展にご期待申し上げます。</p>	<p>・令和3年度上半期の超過勤務手当の増加原因は、8月の病院機能評価の受審対応であり一過性のものです。 また、下半期の病院全体の超過勤務時間は、看護当直の二交代制の実施と併せて縮減に努め、令和2年度同時期に比べて約3割の削減となっています。 ・看護師の二交代制勤務については、11月から1病棟、12月から全病棟での試行を経て、本年4月から本格的に導入する予定です。二交代制勤務により、超過勤務手当削減が見込まれるほか、職員からは、十分な休養が取れ休日も充実する、夜間の通勤の不安が無くなったなどの意見もあり、ワークライフバランスの推進が図られています。</p>
阿南病院	<p>計画比・前期比とも大きく改善され、素晴らしい成果を上げていると評価いたします（特に収益増・経費減はご努力の結果ですね）。また新型コロナウイルス感染症や高齢者への対応など、地域の基幹病院としても充分機能されていらっしゃるものと思います。</p>	<p>当院の取り組みを評価いただきありがとうございます。 新型コロナへの対応と下伊那南部地域における診療環境確保の両立を目指して頑張っております。</p>
木曾病院	<p>新たなお取組みを積極的に展開されていらっしゃる、その成果が業績に反映しているものと評価いたします。医師の超過勤務縮減等の推進に着手されておられますが、具体的にどのような内容なのか、また当事者の受け止めはどうかをお聞かせください。</p>	<p>2024年度において、医師の残業上限時間を超えることのないA水準（年960時間未満）を目標に掲げ、コンサルティング事業者と医師労働時間短縮計画策定を進めています。検討事項については以下のとおりです。 なお、医師の受け止め方には多少の差が見られるものの、概ね前向きにとらえていただいているものと考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働時間の適切な管理方法 ・宿日直許可基準に沿った運用 ・労働時間と自己研鑽時間（超過勤務対象外）の明確化 ・医師の意識改革 ・その他

こども病院	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が継続している中で、一定の成果を上げているものと評価いたします。医師の働き方改革への対応で、変形労働時間制の導入を検討されていらっしゃるとのことですが、具体的な内容や今後の進展見込みについてお聞かせください。</p>	<p>現状の勤務状況における法的対応課題及び管理体制課題を検討し、新勤務表（変形労働時間制）を適用した場合の時間外勤務時間を試算の上、新勤務表導入の効果を測定した結果、効果が認められたため導入しました。 各診療科の部長、医師と協同することにより、医師側の意識も改革されました。今後は、タスクシフト、ICT化について、検討していく方針です。</p>
信州木曾看護 専門学校	<p>制約の多い中、高校訪問など学生確保に向けた取り組みなど積極的に実施いただいたことを評価いたします。コロナ禍による学生たちへの影響はいかがでしょうか。</p>	<p>ありがとうございます。コロナ禍においては、学習面では対面授業の実施、病院などの実習の継続ができました。が、日常生活の制約が多く、ストレスを発散することも尽ならず、精神的な問題を抱える学生が増えてきました。そのため、機構本部のメンタルヘルスケアの仕組みを使わせていただき、学生が相談できる仕組みを構築しました。</p>
本部・研修センター	<p>医薬品費の削減に向け各病院が連携した取り組みをし、一定の成果があったことを評価いたします。こうした取り組みは、他の分野でも広がる可能性はあるのでしょうか。なお全体として、順調に推移しているものと思われました。</p>	<p>医薬品費の削減は本部事務局がコンサル契約を行い、病院と連携して取り組んだ事項になります。同じように医療材料についても、コンサルを活用した価格交渉を本年度信州医療センターと木曾病院で行っており、一定の成果がありました。今後も他病院に拡大するなど、連携した経費削減の取組みを進めていきます。</p>